宇宙生命哲学 ことはじめ

北里環境科学センター
名誉顧問／宇宙生命哲学者
伊藤　俊洋

68

新作オペラ「ドンネルの夢」を観る

日本の近代医学の父といわれる北里柴三郎は、気性が激しく、負けず嫌いで、道に背くことに対しては、迷うことなく大声を上げて諌めた。一方、人情には篤く、弟子たちからは、雷親父（ドンネルの男）と慕われていた。

近年、日本のオペラ文化を向上させようとの意図の元、「歴史オペラ製作委員会」が結成され、そのプロジェクトの記念すべき第一作目が、北里柴三郎物語オペラ「ドンネルの夢」と決まった。

２０２４年は、学校法人研究所の創立１１０周年、大学創立62年の記念すべき年であり、さらに、この7月には北里博士の肖像がデザインされた新日本銀行券の発行が決まっていて、北里研究所は祝賀ムードに湧いており、新作オペラ制作に対し全面的に応援してきた。

歴史オペラ北里柴三郎物語「ドンネルの夢」

制作期間1年余りという短期間にもかかわらず、オペラの制作は着々と進み、２０２４年6月15日（土）、16日（日）2回の上演が、北里大学のキャンパスのある相模原市の杜のホールはしもとで行なわれた。主催者から公演の案内があった時、私は直ぐに3枚のチケットを購入した。当日、会場で案内された席は2階左の桟敷席で、そこからは、舞台の全景と、1階席、2階席の全貌が見渡せ、王侯貴族になった気分で久方ぶりのオペラを楽しむことができた。

舞台には、左手にグランドピアノが1台置かれ、本オペラの全42曲他を作られた作曲家でピアニストの神原颯大氏が、全編の音楽をピアノ演奏だけで支えられた。舞台装置も、中央奥に船着場のようなセットが設られ、極めて簡素であったが、内容は、歴史的な背景を忠実に辿っていて、見せ場が次から次へと流れるように展開した。終盤になり、苦難を乗り越えて北里研究所が発足する場面での北里柴三郎を演じた土崎譲氏のアリアは、研究者の深い思いを朗々と歌い上げ圧巻の出来栄えで、それに続くドンネル合唱団の大合唱は、聴衆を巻き込み大団円を迎えた。合唱団の中には、新型コロナウイルス感染症対策分科会長を務められた尾身茂博士の姿も見られた。

世界初の上演と銘打った今回の公演は、大成功といえるだろう。1年後の２０２５年6月14日・15日には、北里柴三郎物語オペラ「ドンネルの夢」東京公演（墨田区曳舟文化センター）が開催される。本紙では、２０１９年5月10号コラム「お札になる柴三郎」で、北里博士の歴史的偉業については既に紹介している。